

平成 22 年度 事業報告書

1. 仁科記念賞

仁科記念賞は、広い意味での原子物理学およびその応用に関して顕著な業績をあげた比較的若い研究者に授けられる賞で、その公募、選考、授与、過去の受賞者との交流は、当財団の最も重要な事業と位置づけられる。当財団創設の 1955 年以來、毎年数人の将来性豊かな研究者に授与されてきた。これまでの総数は 162 名となり、その中からは、ノーベル物理学賞受賞者 4 名、文化勲章受章者・文化功労者 17 名、日本学士院賞受賞者 26 名、をはじめ、国内外で著名な賞に輝いた受賞者が多く、物理学研究者社会において仁科記念賞の価値と名誉は広く認められている。

仁科記念賞は公募により推薦された多数の候補者の中から選考委員会において選考され決定されている。

第 56 回となった今回は、平成 22 年 12 月 6 日（月）、次の 2 氏に授与された。

- ・受賞者：金子邦彦（東京大学大学院総合文化研究科・広域科学専攻 教授
兼 同研究科・複雑系生命システム研究センター長）
研究題目：大自由度カオスの理論
- ・受賞者：前野悦輝（京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻 教授）
研究題目：スピン三重項超伝導体ルテニウム酸化物の発見

2. 仁科記念講演会

仁科記念講演会も当財団創立以來の重要な事業で、最近では仁科記念シンポジウムも行われるようになった。これらの講演会、シンポジウムには、極めて著名な講師を国内外から招聘する必要があるため、十分な時間をかけて企画と準備が行われ、本財団の後援のもと主催団体を選定し、そこに研究助成金を援助するという形で実施している。

仁科記念講演会の立案と選定は外部の有識者からなる運営諮問委員会によって行われている。

本年度は、仁科芳雄博士生誕 120 周年にあたることを記念して、次の講演会・国際講演会が行われた。

○第 56 回定例仁科記念講演会

仁科芳雄博士生誕 120 周年記念講演会

「日本現代物理学の父 仁科芳雄博士の輝かしき業績」

日 時：2010 年 12 月 6 日（月）16:00 ～ 17:30

場 所：東京大学理学部 1 号館 小柴ホール

共 催：東京大学理学部物理学教室 同化学教室
理化学研究所仁科加速器研究センター

後 援：仁科記念財団

講 師：小林 誠（日本学術振興会理事、
高エネルギー加速器研究機構特別栄誉教授、
2008年ノーベル物理学賞受賞者）

題 目：コペンハーゲンから理研へー素粒子物理学のあけぼの

講 師：西村 純（東京大学名誉教授、
宇宙科学研究所名誉教授）

題 目：ミューオンの発見

講 師：池田 長生（筑波大学名誉教授、
元日本アイソトープ協会常務理事）

題 目：ウラン-237 と対称核分裂の発見

参加者：約 120 名

講演録が NKZ シリーズNo.52 として刊行されている。

○仁科記念国際講演会

本年度5月に第1回国際加速器会議（IPAC'10）が京都で開催されるにあたり、会議の前日に国内外の著名な加速器科学者を招聘して、仁科博士以来の日本の加速器科学の発展と今後の展望について、以下の国際講演会が開催された。

「仁科博士生誕 120 周年記念講演会－仁科博士と日本の加速器科学の発展」

“IPAC'10 Special Lectures to Commemorate the 120th Anniversary of the Birth of Yoshio Nishina : Dr. Nishina and advancement of particle accelerators and their applications in Japan”

日 時：2010年5月23日（日）10:00 ～ 16:00

場 所：国立京都国際会館

共 催：理化学研究所仁科加速器研究センター
IPAC10 組織委員会

後 援：仁科記念財団

講 師：山崎 敏光（仁科記念財団理事長）

題 目：Greetings

講 師：上坪 宏道（理化学研究所 特任顧問）

題 目：Foreword – Dr. Yoshio Nishina

講 師：Michael Craddock（TRIUMF）

題 目：Cyclotrons and FFAGs: From Nishina's Pioneering Work to RI-Beam

Factory

講師：木村 嘉孝（高エネルギー加速器研究機構名誉教授）

題目：From TRISTAN to B-FACTORY

講師：石川 哲也（理化学研究所 播磨研究所長）

題目：Developments of SR in Japan

講師：山崎 良成（J-PARC）

題目：From KEK-PS to J-PARC

講師：山田 聡（群馬大学教授）

題目：Accelerator Developments for Cancer Therapy

講師：Marc Ross（FNAL）

題目：Status of ILC and the Role of Japan in developing the ILC

参加者：約 150 名

成果報告書と英文講演録を財団ホームページに公開している。

3. 研究関連出版

(1) 当財団の出版物

仁科記念財団案内（2010年7月）

NKZ-50 「自然法則の対称性とその破れ」 南部陽一郎（シカゴ大学名誉教授、
2008年ノーベル物理学賞受賞者）（2010年6月）

NKZ-51 「70年の素粒子、混沌からパラダイムへ」 益川敏英（名古屋大学素粒子宇宙
起源機構長、京都産業大学益川塾教授・塾頭、京都大学名誉教授、
2008年ノーベル物理学賞受賞者）（2010年11月）

NKZ-52 「日本現代物理学の父仁科芳雄博士の輝かしき業績」

小林誠（日本学術振興会理事、高エネルギー加速器研究機構特別名誉教授、
2008年ノーベル物理学賞受賞者）

西村純（東京大学名誉教授、宇宙科学研究所名誉教授）

池田長生（筑波大学名誉教授、元日本アイソトープ協会常務理事）
（2011年2月）

4. 仁科記念文庫

(1) 資料の提供

・資料名：大サイクロトロン設計図面等一式

展覧会名：「真空から生まれる科学と技術 - アリストテレスからカミオカンデまで」
（2010年10月16日～12月5日）

主催者・会場：東京大学駒場博物館

・資料名：仁科芳雄博士の写真

提供先：名古屋テレビ

番組名：テレビドキュメント ヒバクコク～切り捨てられた残留放射線～

(2010年11月29日)

(2) 見学者

- ・日時：2010年7月28日（水）午後1時～3時

見学会名：「仁科芳雄博士の足跡を訪ねて」

見学施設：仁科記念室、サイクロトロンモニュメント

説明者；矢野常務理事

見学者：岡山県里庄町中学生（9名）、他

目的：仁科博士の出身地の選抜された中学生を対象にした「仁科博士の足跡をたどる国内・海外研修の旅」の一環

主催者：里庄中学校、科学振興仁科財団、里庄町

- ・日時；2010年10月27日（水）午後3時

見学者：藤家元原子力委員会委員長ご一行

説明者；山崎理事長、矢野常務理事

- ・個人の見学；野依理化学研究所理事長、岸物質・材料研究機構顧問ほか多数